

平成19年8月23日(木曜日)

大野まこと県議会リポート

地方行政のラジオ大野まことと県議

渋滞解消、地域の活性化プロジェクト 今年度中に着工、22年度完成へ

●酒々井インターチェンジ設置促進



自席にて再質問する大野眞県議

大野 (仮称) 酒々井インターチェンジは、佐倉および富里インターチェンジ周辺の交通渋滞解消、交通の利便性向上、地域の活性化などに、ぜひとも実現して欲しいプロジェクトであり、地元酒々井町をはじめ周辺自治体からも強い要望が出されてきた。

すでに事業は着手されておりが、さらに積極的にスピードアップして整備を進め欲しい。そこで、その進ちょく状況を教えて欲しい。

大野 (仮称) 酒々井インターチェンジは、佐倉および富里インターチェンジ周辺の交通渋滞解消、交通の利便性向上、地域の活性化などに、ぜひとも実現して欲しいプロジェクトであり、地元酒々井町をはじめ周辺自治体からも強い要望が出されてきた。

活発に千葉・茨城の経済・文化交流

●若草大橋道路の延伸

要であると考えている。

大野 千葉県側の延伸計画

の検討状況、今後の取り組みについて尋ねたい。

県土整備部長 昨年度、若

草大橋開通後に周辺道路の

交通量調査を実施するなど、

延伸ルート等を検討するこ

ところだが、まず計画に対する県の基本的な考え方をお聞きしたい。

県土整備部長 ご指摘のと

おり若草大橋は、千葉・茨城の経済、文化の交流、ま

た地域の交通渋滞の緩和に

寄与するものとして、県と

しても重要視している。現

在千葉県側では成田空港の

北伸整備とアクセス向上の

ための成田新高速鉄道や北

千葉道路の整備が進められ

ており、大規模な物流・商

業施設も進出してきている。

一方、茨城県側の内陸部

では、竜ヶ崎ニュータウン

などの地域開発が進展して

います。

鉄道利用者、地域住民に

い北総鉄道とのいわゆる二

重運賃の問題が懸念され

ています。

成田新高速鉄道開業に伴

い北総鉄道とのいわゆる二

重運賃の問題が懸念され

ています。

職員給与減額措置継続で論戦

改選後初の6月県議会で、最大会派の自民党代表質問に岡村泰明政調会長(4街道市選出、4期)が登壇、財政、成田空港問題、高齢者問題、医療、環境、新産業振興、教育など幅広い

問題について質問。県の姿勢をただしました。

財政問題では、同議会に追加提案された県職員給与の減額措置の継続議案について、「6年間も職員に負担を課すことについてどのように考へているのか」と質問。知事は、財政健全化

に向け、さらなる財政改革に取り組んでいく必要がある。苦

渋の決断と理解を求めました。

また、平成18年度一般会計決算見込みでは、2月議会時の「収支均衡」から一転、28億円程度の黒字となる見込みとしました。

羽田空港の国際化の進展に対する県の考え方では、今後も「成

都圏の国際航空需要に対応するため、成田空港平行滑走路の北

伸整備を着実に進め、羽田と成田の有機的連携強化が、唯一現

としている。

茨城県側も、当初の予定より遅れてい

るようだ。まだ一日に八百

九百台程度の交通量しか

ないが、今後整備が進めると、交通量は必ずや増加すると

考えられる。県当局は関係

団体との協議を急ぎ、若草

大橋道路の延伸を早期に実

現して欲しい。